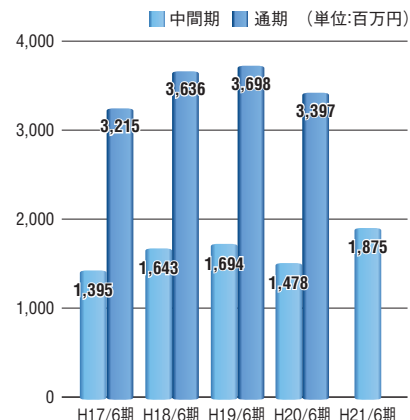
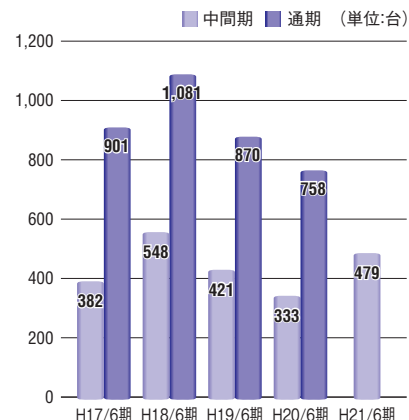
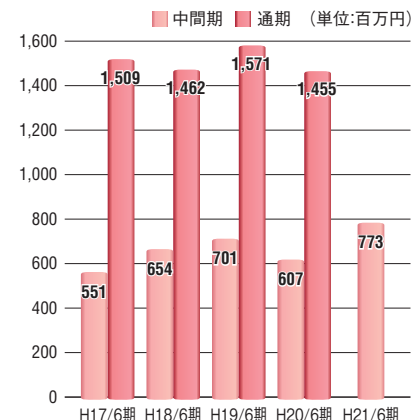
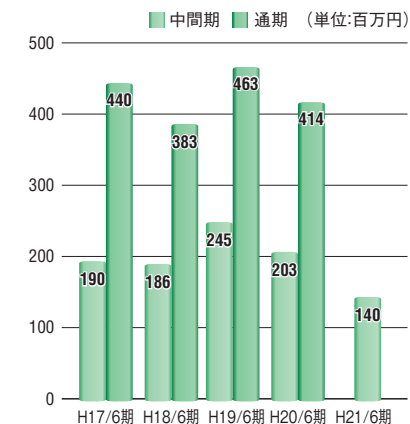
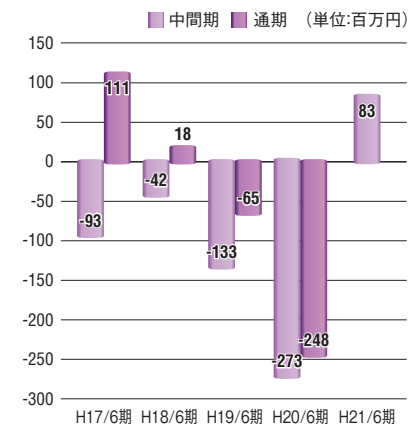
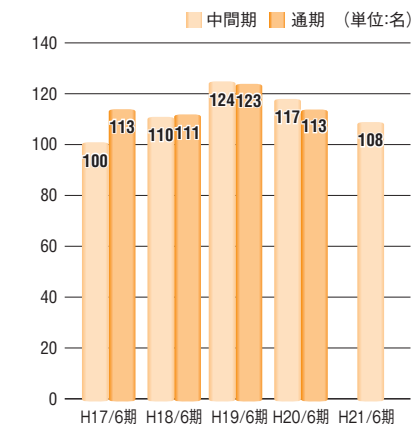
株主の皆様へ

第24期 中間事業報告書

平成20年7月1日～平成20年12月31日

目次

連結財務ハイライト

売上高

DNA自動抽出装置等販売台数

売上総利益

研究開発費

経常利益

従業員数

（注）1.　金額表示につきましては表示単位未満を切り捨てて記載しております。
　　　2.　従業員数については、グループ会社役職員、派遣社員、パート等を含む人数を記載しております。

トップメッセージ　第24期上半期進捗状況と今後の展開について

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。
また、日頃より、ご支援ご鞭撻を賜り、深く感謝申し上げます。

PSSは当期（第24期）上半期の実績において、OEM向け新製品の販売開始による増収と各種経費の圧縮による販売管理費の削減により、上半期として過去最高の売上高と初の最終黒字を計上することができました。この事業実績は、昨年度より押し進めてきた事業指針の成果が着実に現れてきたものだと考えております。以下、３つの重要な事業指針の進捗状況について説明させて頂きます。

1, 業界のブレイクスルー：新製品開発の早期実施による事業の成長（右図ご参考）
①**PSSオリジナル技術**：PSSのオリジナリティの高い技術は特許として成立しているものが数多くあります。中でも、Magtration®はすでに確立された技術で、より高性能、高機能、簡便といった市場の要望に応えながら、安定した収益を確保できています。また、汎用性の高いAPiT™技術により市場ニーズに応える製品の上市を視野に入れています。
②**Pendulum Strategy**：PSSはこれまで、バイオ市場の２つの大きな領域であるDNA（遺伝子）解析とタンパク・免疫測定の両領域を視野に入れた取り組みを行ってきました。PSSのシステム技術を有用なバイオマーカー（検査対象項目）と結びつけて、まずは、臨床研究市場に迅速・確実に製品を上市し、その後、行政による認可·承認を必要とする検査市場を目指します。
③**上市に向けて**：PSSが目指す事業は奥が深く、他の機関、専門家との提携が不可欠です。今後は、PSSの技術を高く評価し、協力してくれる専門家・企業と緊密な連携のもとに着実な成果を得たいと考えています。当面のターゲットとしては食物アレルゲン、プロテイン探索、バクテリア特定の分野を考えています。

2, 既存事業の営業強化について
①**増収・増益達成**：ロシュグループ・キアゲングループ向けのDNA自動抽出装置のバージョンアップ製品、その他OEM向け製品を市場投入したことにより売上が拡大しました。
②**円高対応**：金融危機に端を発する世界的な需要の減退と急激な円高という厳しい経済情勢にありますが、バイオ関連市場は比較的堅調に推移していること、PSSの輸出は販売先との契約で、為替リスクを分担する規定があり、円高の影響はある程度軽減されています。また、円高メリットを生かした調達・生産でコスト削減に努めています。(⇒P4)

3, 販売費及び一般管理費削減の効果
①**削減効果**：前期下半期からの経費削減策の継続と予算管理の厳格化により、経費削減効果として前期比195百万円減、期初予算比78百万円減を達成致しました。研究開発費は、開発が一段落したことから、前期比63百万円減となりました。
②**下半期見込み**：経費削減策の継続により、通期においては、対前期比360百万円減、当初予算費160百万円減の販売費を目指しています。(⇒P4)

最後に、第24期下半期においても、ご説明致しました実行策を厳格に実践してまいりますので、引き続きご支援のほどを何卒宜しくお願い申し上げます。

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
代表取締役社長
田島秀二

業界のブレイクスルーを狙う技術とは？　(⇒P4)

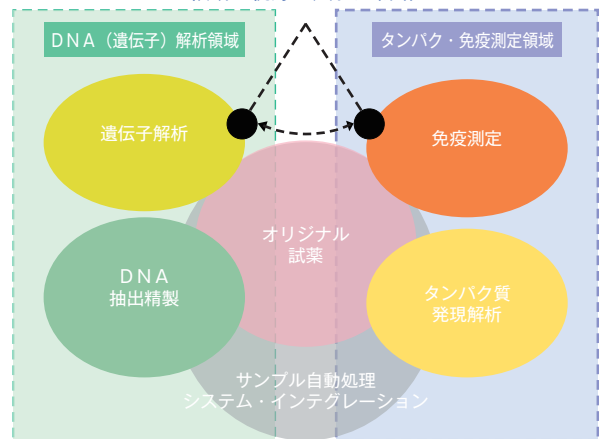
APiT™（オリジナリティの高い技術）

- Magtration®
- Purelumn™
- Bio-Strand®
- BIST™

圧倒的にコストパフォーマンスの高い製品の上市を視野に入れた技術

要素技術の最適な組み合わせ

PSSの技術戦略（Pendulum Strategy）

2つの領域を視野に入れた戦略

上市に向けて

- 有用なバイオマーカーと結びつけて臨床研究市場に上市し検査市場を視野にいれる。
- 専門家集団との連携による着実な成果を目指す。
- 当面のターゲットは食物アレルゲン・プロテイン探索・バクテリア特定

業績予想の修正と事業推進について

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ（2009.2.6 プレスリリース）

・第2四半期連結累計期間業績予想の修正（平成20年7月1日～平成20年12月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	1,750	20	10	0	0円00銭
今回修正予想（B）	1,875	151	83	23	542円46銭
増減額（B)-(A）	125	131	73	23	—
増減率	7.1%	655.0%	730.0%	—	—
（参考）前中間期実績 平成19年12月期	1,478	△210	△273	△399	△9,316円57銭

売上高：当初予想より125百万円増
・ロシュグループ及びキアゲングループ向けDNA自動抽出装置のバージョンアップ製品、新規OEM向け新製品の本格的出荷を開始しました。

営業利益：当初予想より131百万円増
・売上増加による売上総利益増加と前期下半期より手掛けてきた様々な経費削減策効果が、予想を上回った事によるものです。

経常利益：当初予想より73百万円増　**四半期純利益：**当初予想より23百万円増
・マイナス要因として急激な円高の影響を大きく受け営業外損失（為替差損75百万円）と、子会社のPSSキャピタル㈱が管理運営するベンチャーファンドの規模を20億円から10億円に縮小により管理報酬に関する過去の超過受領分をファンドに返還して特別損失33百万円を計上しましたが、上方修正する事ができました。

「バイオコンテンツ投資事業有限責任組合」に関する変更及びこれに伴う子会社の異動について（2009.1.14 プレスリリース）
この結果として、連結子会社が上半期において３社追加されました。（①バイオコンテンツ投資事業有限責任組合②ジェネテイン株式会社③PaGE Science株式会社）

・通期連結業績予想の修正（平成20年7月1日～平成21年6月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	3,700	100	80	40	933円71銭
今回修正予想（B）	3,500	160	80	5	116円71銭
増減額（B-A）	△200	60	0	△35	—
増減率	△5.4%	60.0%	0.0%	△87.5%	—
（参考）前期実績 平成20年6月期	3,397	△141	△248	△400	△9,350円09銭

売上高：当初予想より200百万円減
・PSSの売上高の大半は欧州を中心とする海外の割合が高くなっています。近時の為替動向を勘案して、為替の想定レートを1ドル＝105円、1ユーロ＝160円から、下半期の想定レートを、1ドル＝90円、1ユーロ＝115円に変更を行い、現在の受注動向を勘案した見通しです。

営業利益：当初予想より60百万円増
・当初の売上と売上総利益見通しは減少しますが、販売費及び一般管理費は、開発費を中心に予想以上のコストダウン効果により、当初予想の1,400百万円より160百万円減少の1,240百万円に抑えられる見通しです。

経常利益：当初予想どおり　**当期純利益：**当初予想より35百万円減
・上半期に発生した営業外損益影響により、経常利益は当初予想どおりの見通しです。また、特別損失と法人税充当額などにより、当期純利益は5百万円の見通しとなりました。

第24期下半期事業推進において重要な点とは？

DNA自動抽出装置・消耗品は、景気や円高の影響を 、今のところにおいてそれほど受けていない事から考えると?

PSSの今後の成長には、新たに業界で顧客満足度が高く他社製品と一味違った売上・収益の柱が必要に!

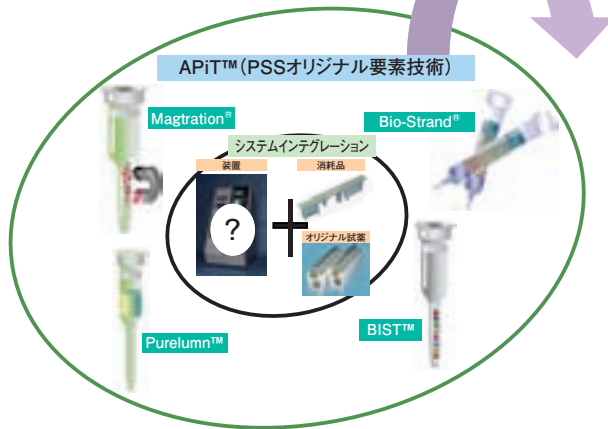
業界へのブレイクスルー（新製品上市）

将来の成長への投資と今期収益確保とのバランスが必要

円高対応策による収益改善努力（第24期黒字化）

今後の円高基調を織り込んだ事業推進が必要に!

PSSの考える業界のブレイクスルーとは？

要素技術の最適な組み合わせにより分子診断における新たな付加価値を提案

圧倒的なコストパフォーマンスの実現を視野に入れた新製品開発

・装置イメージ図

- シンプルな技術によるコンパクトな装置
- 遺伝子からタンパク質までの多種多様なバイオコンテンツに対応可能（Pendulum Strategy）
- 定量性の高い検査データと低コストの装置で新たな市場の開拓を目指していきます。

定量性 高 低
コスト 低 高

円高対応策（第24期黒字化）

1，製造原価削減と円高メリットを生かした海外調達
- 仕入れ価格引下げ交渉
- 消耗品のPSSによる一括調達、業者へ支給（原材料価格高騰への対応としてスタート⇒現在、価格下落+円高メリットが出ています。）

2，OEM取引先との契約条件（為替変動調整）の交渉
OEM先との販売契約条件のほとんどにおいて、為替リスクを分担できる契約条件内容への見直しを行いました。

3，経費削減強化策の継続
- 上半期において通期削減目標額（200百万円）をほぼ達成
- 下半期においても、最近の経済環境（景気・円高）に対応するため引き続き強化策を継続していきます。

改善策により期待できる成果（第24期通期連結業績）

臨床研究市場の利用例

Pendulum Strategy

タンパク・免疫測定領域

- Magtration®
- Purelumn™
- BIST™
- Bio-Strand®

免疫測定関連市場

タンパク質発現関連市場

DNA、遺伝子解析関連市場

DNA（遺伝子）解析領域

・がんマーカー探索支援（2008.9.4 プレスリリース）

・国立がんセンターと共同研究の実施で合意しプロテオーム解析の基盤技術の開発とガンマーカー探索（有用なタンパク質同定）を行います。

・将来の事業化を視野に入れて、PSSからは研究者を国立がんセンターに出向させるほか、タンパク質自動精製装置（Purelumn™）、主要タンパク質除去装置（Magtration® System SA-1）、多項目同時解析装置（BIST™）等を提供し、臨床システム、要素技術としての評価も実施いたします。

Purelumn™

Magtration® System SA-1

BIST™

・特定食物アレルゲン定量システム実用化支援（2008.11.11 プレスリリース）

・特定食物アレルゲンの迅速・簡易な定量法の開発がNEDO「SBIR 技術革新事業」に採択されました。

・PSSではこれまで蓄積してきた技術（抽出 :Magtration®, 検出：BIST™）をこの分野に応用することで、食品事業者が比較的容易に導入できる、安価、迅速及び簡易な特定食物アレルゲンの定量システムを早期に実用化できるものと期待しています。

特定食物アレルゲン検出フロー

・社会貢献活動（理科実験教室）

（2009.1.29　地元ケーブルテレビのニュース番組で放送されました。）

・経済産業省採択事業「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」において、PSS社員による理科実験特別授業が、地元松戸市立馬橋小学校で実施されました。

・本プロジェクト活動は、理科教育振興と地域社会への貢献の一環として、昨年に続いて行なわれたものです。

・授業の内容は６人の若手研究員が、２つの実験教室案を企画し、その一つが左の「色をわけてみよう」という実験で、授業で習った物の分け方（分離）の応用です。水性サインペンの色をろ紙や割り箸、コップなどを使って分ける実験や、PSSの自動化装置で利用されている磁石を使った物の分け方を実験しました。生徒たちは、目の前で起こる分離を実際に見て、驚きの声を上げていました。

・実際の授業では社会人講師が授業を行なうことで、理科の勉強が、実社会でどれだけ役立っているかを、分かりやすく伝えることができました。参加した研究員にとっても意義深い経験となりました。

中間業績概況

連結損益計算書

（単位：千円）

科目	（参考）前中間連結会計期間 自　平成19年７月１日 至　平成19年12月31日	当第2四半期連結累計期間 自　平成20年７月１日 至　平成20年12月31日
売上高	**1,478,398**	**1,875,879**
売上原価	871,367	1,102,381
売上総利益	607,031	773,497
販売費及び一般管理費	817,870	622,041
営業利益	**△210,838**	**151,455**
営業外収益	10,257	17,653
営業外費用	72,509	85,500
経常利益	**△273,090**	**83,609**
特別利益	6,800	993
特別損失	111,444	34,598
税金等調整前四半期（中間）純利益	**△377,734**	**50,004**
法人税等合計	21,387	26,765
四半期（中間）純利益	**△399,122**	**23,239**

売上高
当期間（第２四半期連結累計）は、主力OEM先であるロシュグループ及びキアゲングループ向けDNA自動抽出装置について、バージョンアップによる新製品が本格的に出荷開始されたことから、売上高1,875百万円（前年同期比26.9%増）と、大幅な増収を確保いたしました。その影響から、売上総利益も773百万円（前年同期比27.4%増）となりました。

営業利益
また、販売費及び一般管理費については、前期より手掛けてきた様々なコスト削減策が功を奏し、622百万円（前年同期比23.9%減）と、費用削減することができました。その結果、営業利益151百万円（前年同期は営業損失210百万円）と、利益確保することができました。

経常利益・四半期純利益
一方、近時の円高による為替差損75百万円（営業外費用）や子会社のPSSキャピタル㈱における投資事業組合管理報酬返還金（管理運営するベンチャーファンドの規模を20億円から10億円に縮小したことに伴い、過去の超過受領分をファンドに返還するもの）33百万円（特別損失）などのマイナス要因はあったものの、経常利益83百万円（前年同期は経常損失273百万円）、四半期純利益23百万円（前年同期は四半期純損失399百万円）と、前年同期の赤字から黒字転換となりました。

製品区分別売上高

	前第2四半期累計		当第2四半期累計		前年同期比
	百万円	%	百万円	%	%
DNA自動抽出装置等	**593**	**40.1**	**1,117**	**59.6**	**88.2**
その他理化学機器	**99**	**6.8**	**4**	**0.2**	**△95.8**
その他製品	**214**	**14.5**	**284**	**15.1**	**32.7**
商品（プラスチック消耗品）	**558**	**37.8**	**457**	**24.4**	**△18.0**
その他営業収入	**12**	**0.8**	**12**	**0.7**	**0.1**
合計	**1,478**	**100**	**1,875**	**100**	**26.9**

DNA自動抽出装置等
当期間は、ロシュグループ及びキアゲングループ向けの新機種の出荷が、非常に好調に推移したことから、売上高1,117百万円（前年同期比88.2%増）となりました。

その他理化学機器
当期間は、売上高４百万円（前年同期比95.8%減）となりました。当区分の売上高は、特注システム等の受注状況により大きく変動いたします。

その他製品（装置メンテ、スペアパーツ販売、試薬、ソフトウェアの受託開発など）
当期間は、売上高284百万円（前年同期比32.7%増）となりました。当区分の売上高は、装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

商品（プラスチック消耗品）
当期間は、売上高457百万円（前年同期比18.0%減）となりました。当区分の売上高は、装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、基本的には、順調な伸長が期待できるものと考えておりますが、当第2四半期連結累計期間に関しては、国内向けの一部消耗品の取扱いが完了したことなどが影響し、前年同期比で減少となりました。

その他営業収入
PSSキャピタル㈱が管理運営するベンチャーファンドであるバイオコンテンツ投資事業有限責任組合からのファンド管理報酬により、売上高12百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

取引先別販売状況

	前第2四半期累計		当第2四半期累計		前年同期比
	百万円	%	百万円	%	%
ロシュグループ	**523**	**35.4**	**702**	**37.5**	**34.2**
キアゲングループ	**398**	**26.9**	**632**	**33.7**	**58.8**
三菱化学メディエンスグループ	**248**	**16.8**	**142**	**7.6**	**△42.5**
その他	**308**	**20.9**	**398**	**21.2**	**29.1**
合計	**1,478**	**100**	**1,875**	**100**	**26.9**

ロシュグループ及びキアゲングループ：前期より手掛けてきたDNA自動抽出装置のバージョンアップによる新機種に関し、本格的な販売が開始されたことに伴い、大幅な増収を確保することができました。
三菱化学メディエンスグループ：第１四半期連結会計期間よりは回復基調となったものの、前年同期比では 低調なものとなりました。
その他：米国OEM先への出荷が順調に推移したことから増収となりました。

連結貸借対照表

（単位：千円）

科目	前連結会計年度末（平成20年6月30日）	当第2四半期連結会計期間末（平成20年12月31日）
資産の部		
流動資産	**3,202,196**	**3,086,438**
固定資産	**1,022,391**	**920,897**
有形固定資産	933,196	869,067
無形固定資産	13,851	10,841
投資その他の資産	75,344	40,988
資産合計	**4,224,588**	**4,007,335**
負債の部		
流動負債	**866,139**	**624,226**
固定負債	**934,858**	**809,984**
負債合計	**1,800,997**	**1,434,211**
純資産の部		
株主資本	**2,339,321**	**2,361,875**
資本金	2,041,778	2,041,778
資本剰余金	2,508,354	2,508,354
利益剰余金	△2,210,810	△2,188,257
評価・換算差額等	**84,268**	**△32,844**
繰延ヘッジ損益	57	△15
為替換算調整勘定	84,210	△32,829
少数株主持分	—	**244,093**
純資産合計	**2,423,590**	**2,573,124**
負債・純資産合計	**4,224,588**	**4,007,335**

資産の部
当第２四半期末の資産合計は4,007百万円となり、前連結会計年度末の4,224百万円に比べ217百万円の減少となりました。受取手形及び売掛金が67百万円減少、たな卸資産が52百万円減少となり、流動資産全体では115百万円の減少となりました。減価償却などにより、有形固定資産が64百万円減少、無形固定資産が３百万円減少しました。また、新たに子会社を連結した影響から投資有価証券が減少したため、投資その他の資産が34百万円減少しました。固定資産全体では101百万円の減少となりました。

負債の部
当第２四半期末の負債合計は1,434百万円となり、前連結会計年度末の1,800百万円に比べ366百万円の減少となりました。買掛金が194百万円減少、一年以内返済予定の長期借入金が26百万円減少となり、流動負債全体では241百万円の減少となりました。また、長期借入金が124百万円減少となり、固定負債全体では124百万円の減少となりました。

純資産の部
当第２四半期末の純資産合計は2,573百万円となり、前連結会計年度末の2,423百万円に比べ149百万円の増加となりました。四半期純利益の発生により利益剰余金が22百万円増加、新たに子会社を連結したことに伴い、少数株主持分が244百万円増加しました。一方で、為替換算調整勘定が117百万円の減少となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

科目	前中間連結会計期間 自 平成19年７月１日 至 平成19年12月31日	当第2四半期連結累計期間 自 平成20年７月１日 至 平成20年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	**8,111**	**121,432**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△87,001**	**231,633**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△66,056**	**△151,191**
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,737	△103,125
現金及び現金同等物の増減額	△146,682	98,748
現金及び現金同等物の期首残高	1,478,611	1,459,398
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	—	145,630
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,331,928	1,703,777

当第２四半期連結会計期間末の現金及び預金同等物は1,703百万円（以下「資金」という。）となり、前連結会計年度末の1,459百万円に比べ244百万円の増加となりました。下記におけるキャッシュ・フローにより201百万円の増加、連結の範囲の変更に伴う資金の増加により145百万円の増加となった一方、資金に係る換算差額により103百万円の減少となったことによるものであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前四半期純利益50百万円、減価償却費79百万円、投資事業組合管理報酬返還金33百万円、棚卸資産の減少53百万円などによる資金の増加がありましたが、仕入債務の減少84百万円、売上債権の増加26百万円などによる資金の減少があり、営業活動によるキャッシュ・フローとしては121百万円の増加（前年同期は８百万円の増加）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー
定期預金の取り崩しによる収入（定期預金の純増減）251百万円、有形固定資産の売却による収入４百万円の資金の増加がありましたが、有形固定資産の取得による支出22百万円、無形固定資産の取得による支出１百万円の資金の減少があり、投資活動によるキャッシュ・フローとしては231百万円の増加（前年同期は87百万円の減少）となりました。

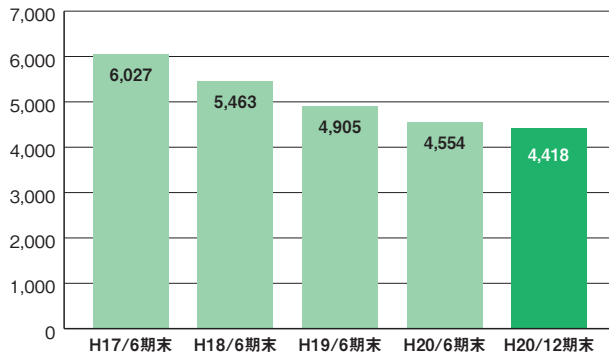
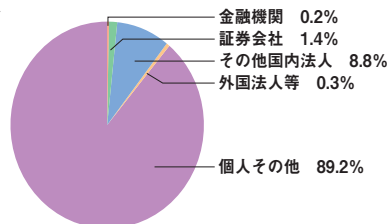
財務活動によるキャッシュ・フロー
長期借入金の返済による支出により、財務活動によるキャッシュ・フローは151百万円の減少（前年同期は66百万円の減少）となりました。

株式の状況（平成20年12月末現在）

会社が発行する株式の総数 ………………… 171,200株
発行済株式の総数 ……………………………… 42,840株
株主数 ………………………………………… 4,418名

大株主

株主名	持株数（株）	出資比率（%）
田島　秀二	11,373	26.5
有限会社ユニテック	3,000	7.0
高山　茂	526	1.2
高橋　計行	477	1.1
亀山　稔	445	1.0
小幡　公道	436	1.0
井上　功	389	0.9
プレシジョン・システム・サイエンス従業員持株会	304	0.7
佐賀　健二	302	0.7
村山　一友	300	0.7

株主数推移（名）

所有者別保有株式数

会社概要（平成20年12月末現在）

商　　　号：プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
（英文社名）：Precision System Science Co., Ltd.
設立年月日：1985年7月17日
役　　　員：

代表取締役社長	田島 秀二
常務取締役	小幡 公道
取締役	秋本 淳
取締役	長岡 信夫
取締役	西村 擶司
取締役	平原 善直
取締役	東條 百合子
監査役	高橋 達雄
監査役	高橋 信雄
監査役	荻原 大輔

（注）高橋信雄氏及び荻原大輔氏は、会社法第2条第16号で定める社外監査役です。

資　本　金：2,041百万円
従 業 員 数：108名
（グループ会社役職員、派遣社員、パート等を含む）
連結子会社：
- ●Precision System Science USA, Inc.（米国）
- ●Precision System Science Europe GmbH（ドイツ）
- ●ユニバーサル・バイオ・リサーチ㈱（千葉県松戸市）
- ●PSSキャピタル㈱（千葉県松戸市）
- ●バイオコンテンツ投資事業有限責任組合（千葉県松戸市）
- ●ジェネテイン㈱（東京都千代田区）
- ●PaGE Science㈱（東京都小金井市）

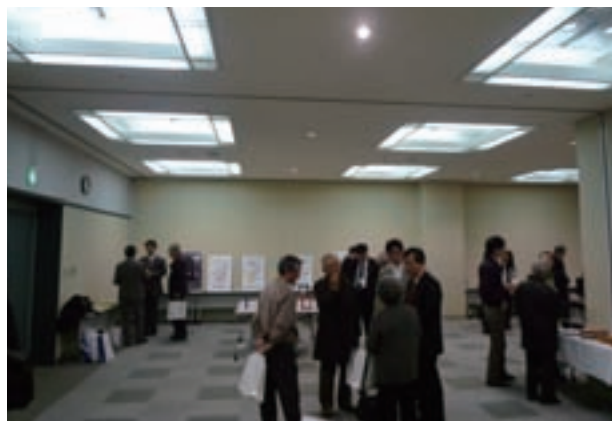
事 業 内 容：遺伝子・タンパク質解析関連業界における研究開発やその研究成果の実用化に用いられる自動化装置、その他理化学機器、ソフトウェア等の開発及び製造販売、ならびに自動化装置に使用される試薬及びプラスチック消耗品の製造販売等

個人投資家説明会ご案内

	大阪開催	東京開催
開催日時	平成21年4月11日（土） 13:00〜15:30（予定）※1	平成21年4月18日（土） 13:00〜16:30（予定）※1
会　　場	**ハートンホール** 大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル12階 TEL:06-6258-1141	**三田NNホール** 東京都港区芝4-1-23 三田NNビル地下1階 TEL:03-5443-3233
主 催 者	株式会社インベストメントブリッジ （ブリッジサロン※2：2-3社合同説明会）	
内　　容	社長田島秀二より、直近の業績概況及び事業進捗について説明申し上げます。	
ご参加 申込方法	中間事業報告書裏表紙の申込葉書に必要事項をご記入の上、弊社宛ご返送ください。 後日、主催者もしくは弊社よりご案内状を送付申し上げます。 なお、ご案内状のお届け方法はメールもしくは郵送をご選択いただけます。※3	
お問い合わせ先	プレシジョン・システム・サイエンス株式会社　業務本部　IR・社長室　TEL：047-303-4800	

※1　記載しております開催時間につきましては、予定であるため変更される可能性があります。詳細は、後日お届けするご案内をご参照ください。
※2　ブリッジサロンは、（株）インベストメントブリッジが主催するIR会社説明会です。
※3　各主催者及び弊社は、メールもしくは参加申込葉書にご記載いただいた情報につきまして、上記以外の目的には利用いたしません。

平成20年9月 第23回定時株主総会（東京）

平成20年11月 個人投資家説明会より（東京）

株主メモ

●事業年度　毎年7月1日から翌年6月30日まで
●剰余金の配当基準日　期末配当金　毎年6月30日
中間配当金　毎年12月31日
●定時株主総会　毎年9月
●単元株式数　1株
●株主名簿管理人 事務取扱場所　東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部
●公告方法　電子公告（http://www.pss.co.jp）
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		0120-288-324 （フリーダイヤル）
お取扱店		・みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 ・みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払・支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用下さい。	単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡下さい。

こちらの申込葉書に必要事項をご記入の上、弊社宛にご返送下さい。
（開催日直前にご返送して頂いた場合には、ご案内状が送付できない場合がありますので、ご注意して下さい。）

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
個人投資家向け会社説明会

ご参加を希望される会社説明会に☑をご記入の上、
本状を弊社宛ご返送下さい。

□大阪開催

開催日時　平成21年4月11日（土）13:00～15:30（予定）
会　場　ハートンホール
大阪市中央区南船場4-2-4　日本生命御堂筋ビル12階
TEL　06-6258-1141

□東京開催

開催日時　平成21年4月18日（土）13:00～16:30（予定）
会　場　三田NNホール
東京都港区芝4-1-23　三田NNビル地下1階
TEL　03-5443-3233

●お問い合わせ
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社　業務本部　IR・社長室
TEL：047-303-4800

郵便はがき

料金受取人払郵便

松戸局承認

569

差出有効期間
平成21年6月30日
まで（切手不要）

271-8790

千葉県松戸市上本郷88
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
業務本部　IR・社長室　行

お名前	フリガナ	年　齢	歳
ご住所	□□□-□□□□ 案内状のお届け方法をお選び下さい。 □郵送　□Eメール（メールアドレス：　　　　）		
TEL			

PSS　IRメール配信のご案内

PSSでは、個人株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを高めるため、Eメール配信を行なっております。プレスリリースや会社説明会のご案内などを、オンタイムでお知らせしております。

PSSホームページ（http://www.pss.co.jp）からメールアドレス登録ができますので、是非ご登録下さい。

モバイル用URL：　http://m-ir.jp/c/7707/

QRコード（カメラ付携帯電話のバーコードリーダーをお使い下さい）

詳しくはご利用中の携帯電話の取扱説明書をご覧下さい。

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
業務本部　IR・社長室

〒271-0064　千葉県松戸市上本郷88
TEL:047-303-4800　FAX:047-303-4810
Eメール:ir@pss.co.jp
http://www.pss.co.jp